観聚和泉だより

観聚学舎　狛江市立狛江第一小学校
７月号　　令和３年７月 20 日発行
http://www.komae.ed.jp/ele/01/

一小の歴史から

校長　川﨑　貴志

昭和 20 年８月 15 日、戦争は終わったけれど、これからやってくるアメリカ兵への恐怖と極度の食糧不足で、疎開する者がかなりいた。狛江国民学校（現在の一小）でも二人の教員が退職し郷里に帰った。（中略）深刻な物不足から子供の使う学用品さえ手に入らず、みな配給制で、地方事務所の指示で教員が（府中、吉祥寺等に）取りに行っては児童に配っていた。

昭和 20 年５月 25 日の空襲で校舎が焼けた後、児童は神社やお寺の境内で学習していたが、終戦後は生産を止められた湘南製作所、国際電気、玉川医療器など軍需工場の建物を借りて教室にした。天井板のない建物の内部を仕切って手頃な広さにしたが屋根裏までは仕切れず、また、いたずら盛りの子供たちだから仕切板には穴が開き、隣の先生の大きな声が聞こえたり、のぞきっこをしたり、手を出したりして楽しんだ。

戦争による物不足から日常着る服がない。それを洗う石鹸もないから洗濯ができない。不潔な生活の中で虱（シラミ）が大発生した。（中略）全校児童を校庭に整列させて DDT を頭の上から衣服の中まで散布した。

新校舎の建設は、昭和 21 年５月から始まったが、その年度中にできたのは５教室だけ。次の年に９教室、全教室が完成し、全校児童が一緒に勉強できるようになったのは、昭和 23 年５月であった。

しかし心がすさみ、極端な物不足から窓ガラスの盗難がひどかった。一晩で 59 枚、84 枚、32 枚、53 枚など大量にとられることもあったので、窓ガラス一枚一枚にペンキや釘で学校名を記入して盗難防止に努めた。（以下略）

（狛江・今はむかし　上巻　142「狛江国民学校の戦後」　井上孝　より）

終戦後、一小の先人たちは様々な困難に直面しながらも、復興に向けて必死に乗り越えてきたことが伺えます。令和の今もコロナ禍で大変な時代ではありますが、この苦難を乗り越え、元通りの社会生活、学校生活に戻れることを願ってやみません。

まだまだ、制約が多い中ではありますが、様々なことにチャレンジし、この夏しか作れない、思い出深い夏休みを過ごして欲しいと思います。二学期の始業式には、一回り成長した子供たちに会えることを楽しみにしています。

お知らせ

○夏休み中に範囲を広げて工事が行われます。皆様には御迷惑をお掛けいたしますが、御理解と御協力の程、よろしくお願いいたします。

・７月 21 日から８月７日頃までの期間で、正門付近で工事があります。安全確保のため、警備員が配置されます。来校の際は、警備員の誘導に従ってください。

・８月９日から８月 25 日頃までの期間は、南門付近の工事があり、南門からの立ち入りができなくなります。学校に御用の際は、正門からお入りください。

○通知表（あゆみ）の「出欠の記録」について

・病気、体調不良等が理由で欠席された場合、「出席停止・忌引き等」の欄に日数を記録しています。その他の理由で欠席された場合は、「欠席日数」の欄に日数を記録しています。